第10回新規就農推進フォーラム

『社会的福祉的公益財としての都市農業』

主催：東京農業大学総研研究会就農者推進教育研究部会
共催：東京農業大学就農者育成支援プログラム検討委員会
後援：東京農業大学農学研究所
東京農業大学教育後援会

場　所：東京農業大学厚木キャンパス第2講義棟3階（2301教室）
日　時：平成26年11月29日(土)13:00~18:30
【受付　12:30より第2講義棟入口エレベーターホール】
連絡先：神奈川県厚木市船子1737　東京農業大学 厚木キャンパス事務部キャリア課
TEL：046-270-6228　E-mail：career-a@nodai.ac.jp

第1部　基調講演（13:00~15:00）
◎講演1　（13:15~14:00）
「厚木市における都市農業の未来と戦略展開」
大矢　和人（JAあつぎ指導販売部部長）
◎講演2　（14:00~14:45）
「都市農業における社会的福祉的活動の取り組みと課題」
大貫　智義（もとよし）（横浜市青葉区で営農、平成7年農学科卒）

第2部　報告（15:00~15:30）
◎報告1　（15:00~15:15）
「都市農家の社会的福祉的公益財としての意識調査」
小川　豊（バイオセラピー学科人間植物関係学研究室4年）
◎報告2　（15:15~15:30）
「社会的福祉的公益財としての都市農業への市民の意識調査」
本間　友菜・田島　和弥（バイオセラピー学科人間植物関係学研究室4年）

第3部　討論会（15:40~16:40）
「豊かな社会の構築に貢献する都市農業の役割」
コーディネーター;宮田　正信
（東京農業大学総研研究会就農者推進教育研究部会長）

情報交換会（17:00~18:30）
場所:レストラン『けやき』

第 10 回新規就農推進フォーラム

『社会的福祉的公益財としての都市農業』

日時　平成 26 年 11 月 29 日(土)13：00～18：30
　【受付　12：30 より第 2 講義棟入口エレベーターホール】
場所　東京農業大学厚木キャンパス第 2 講義棟 3 階（2301 教室）
主催　東京農業大学総研研究会就農者推進教育研究部会
　　東京農業大学就農者育成支援プログラム検討委員会
共催　東京農業大学農学研究所
後援　東京農業大学教育後援会

第 10 回新規就農フォーラム

『社会的福祉的公益財としての都市農業』

《 プ ロ グ ラ ム 》

第 1 部　基調講演(13：00~15：00)

◎講演 1　　（13：15~14：00）

「厚木市における都市農業の未来と戦略展開」

大矢　和人（JA あつぎ指導販売部部長）

◎講演 2　　（14：00~14：45）

「都市農業における社会的福祉的活動の取り組みと課題」

大貫　智義（もとよし）（横浜市青葉区で営農、平成 7 年農学科卒）

第 2 部　報告（15：00~15：30）

◎報告 1　　（15：00~15：15）

「都市農家の社会的福祉的公益財としての意識調査」

小川　　豊（バイオセラピー学科人間植物関係学研究室 4 年）

◎報告 2　　（15：15~15：30）

「社会的福祉的公益財としての都市農業への市民の意識調査」

本間　友菜・田島　和弥（バイオセラピー学科人間植物関係学研究室 4 年）

第 3 部　討論会（15：40~16：40）

「豊かな社会の構築に貢献する都市農業の役割」

コーディネーター；宮田　正信

（東京農業大学総研研究会就農者推進教育研究部会長）

情報交換会（17：00~18：30）

場所：レストラン『　け　や　き　』

『共感の構築をめざして』

―市民との交流無くして持続的農業はない―

まずは合掌である。

10 年前にこの「新規就農フォーラム」を提唱された陶山一雄先生は、今年の 10 月末に 3 回忌を終えた。そしてあろうことか、もう一人の発願人である大谷忠先生も 8 月 13 日に帰天されてしまった。ヤコボの洗礼名を持つ大谷先生は、その洗礼のごとく巧言令色を弄することはなかったが、胸に秘めた想いは誰よりも大きなものを感じたものだ。この取り組みの嚆矢となられたお二人の先生に合掌したい。

一方で豊かな社会を構築するために、農業の果たす役割の大きいこと、欠かせないことを意識しながら、他方で日本農業の未来と東京農業大学の実学主義の在り方を考え、歩幅の狭い一歩ではあるが「新規就農フォーラム」の第一歩を踏み出した。そして地域に入っての農業体験実習へとつないだ。さらに就農支援のための教育活動も加わって農業や農村、農家の理解についての取り組みは次第に拡大している。

「新規就農フォーラム」は 10 年目を迎えたが、本音を言うと、この活動は学生や教職員にどれくらい意識されているのだろうかと不安になることがある。みんなそれぞれの分野で頑張ればそれでいいのだが、農学や農業の根源的な部分だと考えているので心配も高じるわけだ。それでもこの活動を継続している理由は、この活動に参加する学生が体験活動を契機に確実に成長するからだ。成長する学生がいることこそ教育の醍醐味であり、当事者冥利に尽きるというものだ。フォーラムや地域での実習に取り組んできた学生こそ、私たちの未来を託せる存在だと考えている。

ともあれ継続してきたことが様々なシナジー効果を生んでいる。活動にお付き合いして下さっている地域の方々は、東京農業大学との交流を心から喜び、学生に対しては技術や知恵や生き方を含めてあらゆる便宜を図って下さっている。完全受容なのだ。継続していることの所産である。

はてさてこのフォーラムでは、当初は新規就農に求められる考え方や資質、スキルについて先達のお話を伺ってきた。そして女性の役割や流通の在り方などにも取り組み、次第に農業の本質論についてアプローチを試みるようになった。さらに TPP を始めとするグローバル化に対して私たちがどのように対応すべきか、前回のフォーラムではローカル化の取り組みについて考えたのだが、TPP もグローバル化反対も当事者だけで空騒ぎしているような印象を受けた。この問題は農業に携わる者だけでなく国民すべての問題なのに、国民は醒めている。全くの他人事だと言わんばかりである。冒頭にも述べたように、農業無くして豊かな未来社会の構築はできるはずもないのだが、国民はおろか農業者にもその意識は希薄である。農業の多面的機能について問うても馬耳東風の状況だ。別の見方をすれ

ば、農業・農村はそんな大切な事すら考えられないほど疲弊しているのかもしれない。

そこで今回のフォーラムでは、都市農業に視点を当てた。都市農業を振興しようということが主目的ではなくて、農業理解のツールにしたいのだ。確かに中山間地域で交流体験をすれば、農業の多面的機能や農業が豊かな社会の構築に不可欠であることが深く理解されるのだが、いかんせん対象となる分母が小さい。都市には対象となるべき分母が、老若男女、あらゆる階層を含めて無限である。交流の機会もはるかに作りやすい。都市の人々とともに社会的、福祉的視点に立った活動を行えば、農への理解が深まるだけでなく、農業、農家のサポーターになる可能性が高い。

生産者と購買者、消費者という単線的な関わりにとどまらず、農業を介して豊かな地域社会を構築するための活動を展開しなければ意味がない。環境、景観、教育、福祉、地域文化などに貢献する多面的な機能も、交流活動による相互理解や感動によってもたらされる。そこに都市農業の必然性が生まれるし、公益的位置づけとなる。

都市における交流活動は農業理解のツールとしての役割を果たすだけでなく、まさに社会的、福祉的機能を発揮して、豊かな社会づくりに貢献する。そして、それは都市にとどまらず、わが国の社会に広く敷衍させなければならない。今回のフォーラムは、農業こそが豊かな社会を構築する上で欠かせない存在であるという意識発揚の嚆矢としたい。

（東京農業大学総研研究会就農者推進研究部会長　宮田　正信）